2019年度
親子ふれあいデー活動
（まとめ報告書）

熊本県ＰＴＡ連合会

２０１９年度　親子ふれあいデー活動

目　次

☆２０１９年度親子ふれあいデー活動委嘱校

☆２０１９年度委嘱校活動報告

１．山鹿市立山鹿中学校ＰＴＡ　・・・・・１

２．大津町立護川小学校ＰＴＡ　・・・・・２

３．大津町立大津東小学校ＰＴＡ　・・・・・３

４．大津町立大津中学校ＰＴＡ　・・・・・４

５．阿蘇市立内牧小学校ＰＴＡ　・・・・・５

６．山都町立蘇陽小学校ＰＴＡ　・・・・・６

７．山都町立清和小学校ＰＴＡ　・・・・・７

８．嘉島町立嘉島西小学校ＰＴＡ　・・・・・８

９．宇土市立走潟小学校ＰＴＡ　・・・・・９

１０．美里町立砥用小学校ＰＴＡ　・・・・・１０

１１．宇城市立小川小学校ＰＴＡ　・・・・・１１

１２．上天草市立姫戸小学校ＰＴＡ　・・・・・１２

１３．苓北町立富岡小学校ＰＴＡ　・・・・・１３

１４．天草市立楠浦小学校ＰＴＡ　・・・・・１４

１５．芦北町立田浦小学校ＰＴＡ　・・・・・１５

１６．人吉市立西瀬小学校ＰＴＡ　・・・・・１６

１７．あさぎり町立深田小学校ＰＴＡ　・・・・・１７

１８．水上村立湯山小学校ＰＴＡ　・・・・・１８

２０１９年度親子ふれあいデー活動委嘱校

	ブロック	エリア	単位ＰＴＡ名
1	県 北	山鹿市	山鹿市立山鹿中学校ＰＴＡ
2		菊池郡	大津町立護川小学校ＰＴＡ
3		菊池郡	大津町立大津東小学校ＰＴＡ
4		菊池郡	大津町立大津中学校ＰＴＡ
5		阿蘇	阿蘇市立内牧小学校ＰＴＡ
6		上益城郡	山都町立蘇陽小学校ＰＴＡ
7		上益城郡	山都町立清和小学校ＰＴＡ
8		上益城郡	嘉島町立嘉島西小学校ＰＴＡ
9	県 南	宇土市	宇土市立走潟小学校ＰＴＡ
１０		宇城市・ 下益城郡	美里町立砥用小学校ＰＴＡ
１１		宇城市・ 下益城郡	宇城市立小川小学校ＰＴＡ
１２		上天草市	上天草市立姫戸小学校ＰＴＡ
１３		天草郡市	苓北町立富岡小学校ＰＴＡ
１４		天草郡市	天草市立楠浦小学校ＰＴＡ
１５		葦北郡	芦北町立田浦小学校ＰＴＡ
１６		人吉市	人吉市立西瀬小学校ＰＴＡ
１７		球磨郡	あさぎり町立深田小学校ＰＴＡ
１８		球磨郡	水上村立湯山小学校ＰＴＡ

親子ふれあいデー活動報告書

令和　1　年度

単位ＰＴＡ名（　　山鹿市立山鹿中学校　　）　　児童生徒数（　　727　　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　20,000円
　　単Ｐ
　　その他　7,176円

（支出）27,176円
花苗代、ツリー作り材料など

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

・教室に生花を飾る活動
・地元高校生と生徒と保護者、地域のボランティア「さくら会」と合同でクリスマスツリー（松ボックリ）作りと花壇に花を植える活動
・本の読み聞かせ
・ステップ教室での手芸活動

◎成果

地域の学校応援団「さくら会」の方々に協力いただき、保護者と生徒たちが一緒に活動したことで、保護者間と地域の方々と交流を深める機会となった。
また、地元高校生と生徒たちとのつながりを深める事もでき、活動中の教室では笑い声があり、和んだ雰囲気で取り組むことができた。

◎反省

花壇の花植えは、たくさんの中学生の参加で寒い中スムーズに植える事ができた。
クリスマスツリーの材料、松ボックリが少なかった為、希望された中学生全員に作成してもらう事ができなかったので、来年は松ボックリをたくさん準備したいと思う。

３．今後の取り組みについて

保護者への参加しやすい環境を作っていきたい。

４．要望・その他

毎年委託させていただき、補助金でこのような活動を計画することができ、
たくさんの生徒たち、地域のボランティアの方々で山鹿中学校を盛り上げることができ感謝しております。
今後も活動を続けていきたいと思います。

親子ふれあいデー活動報告書

2019（令和元）年度

単位ＰＴＡ名（　大津町立護川小学校　）　児童生徒数（ 184 ）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　20,000円
　　単Ｐ　4,030円
　　その他

（支出）　タープテント2個　24,030円

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

- PTA主催で、「Wack！Wack！もりかわフェスタ」を実施。
- フェスタの内容としては、PTA母親委員による豚汁および制服バザー、地域の方によるワークショップ、民生委員さん、ボランティアさんによる体験・遊びのコーナー、本校児童親子による出店コーナー、児童・地域の方によるステージ発表、町内飲食店による販売。
- PTA父親委員さんによる、会場設営、駐車場整理、衛生管理など。

◎成果

- PTA、学校、コミュニティー・スクールの協働により、チラシや回覧板でフェスタ開催の周知を行い、当日は約600人の参加があった。世代を超えた交流がみられたことは、地域に開かれた学校として予想をはるかに超える温かい成果となった。
- 親子による出店コーナーでは、右往左往しながらも協働で出店するにあたり親子での会話が増えた。また、教科をまたぐ要素をもつ「出店」を通して、貴重な失敗を重ねながら体験型の学びとなった。

◎反省

- PTA内の反省としては、豚汁作りにおいて、材料の引き継ぎはあったものの、調理手順において引き継ぎが不十分な点があった。今回の反省を次年度に活かしたい。
- 制服バザーに関しては、初回ということもあり、品数がそろわなかったことに加え、小学校の制服のニーズがあまりなかったこともあり、在庫を抱えることとなった。次回の検討事項とする。

３．今後の取り組みについて

- 文科省指定のコミュニティー・スクールとして、地域の皆様のご協力のもと体験型の学びの機会をたくさんいただいているので、今回のようなフェスタにおいてさらに交流を深め、子どもも大人も安心して過ごせる「ゆるやかにつながる地域づくり」をめざしたい。
- 次年度も、過度な負担を産まない仕組みとなるようブラッシュアップし、みんなが「ワクワクしながらつながる」をモットーに取り組んでいきたい。

４．要望・その他

初めて申請させていただきましたが、雨天時にも対応できるテントを購入させていただくことが出来、感謝しております。これからも、親子ともに学び合える教育環境を整えるPTAをめざしていきたいと思います。ありがとうございました。

親子ふれあいデー活動報告書

令和１年度

単位ＰＴＡ名（大津町立大津東小学校）　　児童生徒数（　42　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　20,000円
単Ｐ　1,729円
その他

（支出）　豚汁　12,051円
餅つき　9,678円
合計　21,729円

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

親子ふれあいフェスタ（11/17）

餅つき：　5年生が中心となって地域の方と保護者にご指導いただき、杵で餅つき体験をしたり、餅まるめをしました。出来たお餅を一人暮らしの方へ届けました。

豚汁　：　6年生が中心となり大人は見守る形で、子供達だけで200食の量の豚汁を作り、昼食として日頃お世話になっている地域の方々と一緒にお餅と豚汁を美味しく頂きいただきました。

ハーバリウム製作：　親子で楽しく個性溢れるとても素敵な作品が出来ました。

◎成果

小規模校の為、日頃から地域の方の御協力があって、子供達は毎日安全に楽しく学校生活が送れています。地域の方にお礼の気持ちを込めて一緒に食事をし交流が出来てよかったと思います

◎反省

予算があまりなく　ハーバリウム製作は自己負担になってしまいました。
毎年の記録が残っていないため、分量等で悩みました。

３．今後の取り組みについて

今後Ｐ数が減少傾向にあるので、これから益々地域の方との交流を深める場を多く作りたいと思います。

４．要望・その他

毎年委嘱させていただき、小規模校でもこのような活動が出来て感謝いたしております。

親子ふれあいデー活動報告書

令和元年度

単位ＰＴＡ名（　大津町立大津中学校　）　　児童生徒数（　407名　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　　20000円
　　単Ｐ　　30000円
　　その他　　10000円

（支出）60000円
　　講師謝礼

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

親子ふれあいデー企画

『僕らの未来へ　Yes　Future』進藤久明　大津中学校　親子ふれあいLIVE

日時　令和2年　1月31日（金曜日）　授業参観後　11：50～15：40（50分）

場所　大津中学校体育館

参加者　600名

◎成果

進藤久明さんの代表曲である『あしたへ』『黄昏のおっさん』などの歌をはじめ、今年度より大津中学校で取り組んでいるキャリア教育も兼ねた進藤久明さんのこれまでの生き様や夢なども話して頂きました。またギターの迫力ある生演奏で体育館は熱気に包まれ、最後のアンコール曲では全校生徒が総立ちし肩を組み熱唱しLIVEは大いに盛り上がりました。後日生徒たちからの感想文を拝見したところ『元気が出た』『受験に向けて前向きになれた』『友情が深まった』などほぼ全校生徒からの感想があり、先生また保護者さんからも『元気いっぱいな子供たちの姿が見れて良かった』と喜ばれました。執行部としましても今回この親子ふれあいLIVEを企画して良かったと思います。

◎反省

LIVE前に体育館での授業参観もありリハーサルや準備が難しいところがあった。

３．今後の取り組みについて

今後も子供たちのモチベーションを上げていけるように先生たちと連携を図りたい。
講演会も良いが防災や緊急時に備えた企画も考えていきたい。

４．要望・その他

今年度も県Ｐさんからの補助のおかげで親子また先生たちと貴重な時間が作れました。
ありがとうございました。
今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

親子ふれあいデー活動報告書

2019年度

単位ＰＴＡ名（阿蘇市立内牧小学校PTA）　　児童生徒数（313）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　　20,000円
　　その他　125,000円

（支出）145,000円
　　・地域体験活動　各地区活動費として

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

（１）地域体験活動（令和元年９月７日（土）８：１５～１２：００）

学校と公民館分館、行政区、ＰＴＡが協働で、校区の15地区で地域体験活動を開催した。地域資源を活用し、子どもたちと地域住民のふれあいを目的として、昔遊び、お地蔵さん巡り、竹ポックリ・竹馬づくりなどの体験活動を行った。

（２）地域貢献活動（令和元年１２月２０日（金）１４：３０～１６：３０）

地区児童会が、保護者、地域住民、教職員と連携し、校区の15地区で地域貢献活動を実施した。地域のために、児童自らができることを考えて実行することを目的として、神社周辺清掃、通学路清掃、しめ縄作り・配付などの地域への貢献活動を行った。

◎成果

（１）地域体験活動

地域においては、児童を中心に据えた地域づくりを活性化させるとともに、学校においては、社会に開かれた教育課程の実施の中核を担う活動となっている。地域で児童を守り育てる機運を高めるとともに、学校教育目標の具現化を図ることにつながった。

（２）地域貢献活動（令和元年１２月２０日（金）１４：３０～１６：３０）

地域のためにできることを考えて実行するという児童の主体性を育てることができた。また活動を通して、地域の人とふれあい、地域の良さを確認することができた。

◎反省

（１）地域体験活動

これまで、７年間継続してきており、楽しさだけを追求する活動ではなく、活動を通して地域のよさを実感することのできる内容の検討が必要である。

（２）地域貢献活動

これまで、７年間継続してきており、児童が主体的に地域に貢献するための新しい発想を生かした内容の検討が必要である。

３．今後の取り組みについて

地域（公民館分館長、行政区長）、保護者（ＰＴＡ）、学校(各地区担当職員)の三者で構成する実行委員会を事前に２回、児童代表も参加する振り返りの実行委員会を事後に１回実施し、ＰＤＣＡサイクルにより活動の改善を図っている。この活動を通して、学校教育目標の具現化を図るとともに、地域で児童を守り育てる機運をさらに高めていきたい。

４．要望・その他

（特になし）

親子ふれあいデー活動報告書

平成３１・令和元年度

単位ＰＴＡ名（山都町立蘇陽小学校ＰＴＡ）　　児童生徒数（７６）人

１　予算執行状況（収入・支出）

（収入）県Ｐ　２０，０００円　　（支出）２０，０００円
そこっ子ふれあいフェスタ用
もちつき材料代など

２　活動内容・成果・反省

【活動内容（そよっ子ふれあいフェスタ）】

①　学習発表会

各学年ごとの学習成果発表のあとに、アトラクションとして、児童、保護者、地域の方々による地域に残る高畑神楽を披露していただいた。

１年生「ちからをあわせて「うんとこしょ」（国語科）
２年生「スイミー」（音楽科）
３年生「そうぞうしよう、ちいちゃんの生きた時代」（国語科）
４年生「くらしをよりよくするために～通潤橋物語」（社会科）
５年生「水俣から学んだこと」（総合的な学習の時間）
６年生「夢へのとびら」（総合的な学習の時間）

②　ふれあい活動

祖父母、老人会、保護者の方々と子どもたちが室内と屋外に分かれて昔遊び（お手玉、おはじき、あやとり、竹とんぼ、独楽遊び、竹馬等）をする活動を取り入れた。（児童は、希望した遊びを体験）

③　もちつき体験

ＰＴＡ保安体を中心に前日から材料、道具などを準備し、子どもたちのもちつき体験（縦割り班活動）を行った。本年度も、保護者だけでなく、祖父母の方々の協力のもと実施することができた。

【成果】

・学習内容を地域へ発信することで、地域に残るふるさとの宝を未来に残していきたいという強い思いを持つことにつながった。
・「昔遊びを子どもたちに伝えていくことは、良いことだと思います。久しぶりに羽子板をして、私も楽しめました。」「高畑神楽を間近で見ることができ、感動しました。ふるさとの宝だと思いました。」という保護者の感想をいただいた。また、保護者や地域の方々と触れ合いながらもちつき体験をすることで、楽しさだけでなく、心の触れ合いもでき児童も大変喜んでいた。
・昨年度から保護者が学習発表会をゆっくりと参観できるように、早朝からのもちつきをやめ、児童の体験を中心としたもちつきに変更した。保護者の負担感も軽減され好評だった。

◎反省

ふれあい活動で協力していただくお年寄りが年々少なくなってきている。今後、参加者を募る手立てをさらに検討していきたい。

３　今後の取り組みについて

今後は、「そよっ子ふれあいフェスタ」の内容の精選・充実を図り、地域と連携した取組を推進していきたい。また、稲作体験や芋づくりなどの自然体験での触れ合いとも連携させながら、本年度の活動の反省を生かして実施できるように工夫改善を図っていきたい。

４　要望・その他

本年度も、親子ふれあいデー活動の委嘱を受け、助成金を「そよっ子ふれあいフェスタ」を中心に活動費に活用することができ大変ありがたかった。来年度もぜひ、活用させていただきたい。今後もよろしくお願いいたします。

親子ふれあいデー活動報告書

令和元年度

単位ＰＴＡ名（　清和小学校ＰＴＡ　）　　児童生徒数（　９２　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　２００００円　　（支出）　２００００円
　　単Ｐ
　　その他

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

農業体験活動：ＰＴＡ（環境保体部）及び地区農業者年金受給者協議会が協力して、児童の農業体験（稲作）を支援している。種籾捲き、田植え、除草作業、稲刈り・掛け干し脱穀等の一連の稲作活動を児童が行い、収穫米は学校給食にも利用している。県Ｐ助成金は、脱穀・籾摺り代等に活用した。

親子創作活動：１１月２９日の清和小学校ふるさと祭りの一部、ふれあい活動をＰＴＡが地区公民館支館長と協力して行っている。本年度は、しめ縄づくりの他にＰＴＡが初めてクリスマスリースづくりに取り組み、児童と保護者が一緒になってリースづくりを行った。県Ｐ助成金は、リースづくりの材料費に充てた。

◎成果

農業体験活動：ＰＴＡだけでなく、地域団体も参画していただいたことで、地域の子どもは地域で育てるという意識の醸成につながった。児童は稲作の大変さや難しさとともに収穫することの喜びを経験することができた。また、保護者の中にも稲作の経験がない人もいて、親子一緒に貴重な経験をすることができた。

親子創作活動：クリスマスリースづくりは、ＰＴＡから発案し、材料準備から当日の作業説明・指導までＰＴＡ主導で行うことができた。また、親子一緒に活動していく中で、親子で会話しながら作業したことで、予想していたリースよりずっと手の込んだ立派なリースが出来上がり、子どもたちも嬉しそうだった。作成したリースは、その日に持ち帰り、クリスマス用に家庭に飾るなどした。

◎反省

標記の他にも本校では、親子がふれあう機会は多く設けられている。「みどり教室」や「ふれあい給食」等、ＰＴＡが主体的に取り組む活動も多い。標記の農業体験活動では農業者年金受給者協議会、親子創作活動では「公民館支館長会」との連携した取組で親子のふれあいだけでなく、地域の方とのふれあいも含まれている。それぞれ以前から続いている活動であるが、よりＰＴＡが主体となって様々な工夫を凝らしながら、進めていけるようにしたい。

３．今後の取り組みについて

農業体験活動については、農業者年金受給者協議会とより連携を深め、どのような体験をさせていくか事前に十分検討し、児童が農業をはじめ、地域の産業や親の仕事などにふれ合う機会を設けていきたい。

親子創作活動については、公民館支館長と事前に十分協議し、児童と一緒に取り組める活動プランをいくつか作成し、マンネリにならないよう工夫を凝らしていきたい。

本校は、保護者、地域の協力が十分にあり、様々な取組にも積極的に参加していただけるので、今後もＰＴＡが中心になって取り組んでいきたい。

４．要望・その他

今回の活動補助により、本年度の活動に工夫をすることができました。次年度以降も是非助成をお願いしたいと思います。

親子ふれあいデー活動報告書

令和元年度

単位ＰＴＡ名（　嘉島西小学校　）　　児童生徒数（　　４６０　　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　20,000円
　　単Ｐ　17,510円
　　その他

（支出）

バザー抽選会景品	18,340円
ベルウェベル交通費、昼食代	14,547円
配布用飴代	4,623円
合計	37,510円

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

年に２回実施していた親子レクレーションだったが保護者、先生と全体の負担軽減も考慮して全校一括して合同で行いたかったが初めて実行するので試しに、１年生～４年生（５・６年生自由参加）を合同で行うこととした。内容はキャンドル作りアルバム作り、FUN&FITのドナルドさんとドッジボール大会を行った

バザーはカニコレコレクションと称してハロウィンパーティーみたいにメイキング、ファッションショーで楽しみつつ、最後は抽選でプレゼントがもらえるイベントを行うことができた。

◎成果

親子レクを一括することで子沢山の保護者と先生方の負担軽減ができ、休日に参加する回数を共に減らすことで負担軽減になり、感謝の言葉もいただくことができた。

◎反省

保護者が車で来る際の駐車場の心配、駐車するためにグランドを開放すると親子レクでグランドが使用できない事をふまえて段取りする必要があった。

親子レクに参加する際、参加項目に対して平等な人数割り振りとスペースを作ることがうまくできなかった。

３．今後の取り組みについて

学校、保護者、担当者の負担軽減を考慮しつつ、親子レクを行う必要があると感じるので引き続き楽しみながら親子レクを続けていきたい。

４．要望・その他

親子ふれあいデー活動報告書

令和元年度

単位ＰＴＡ名（走潟小学校ＰＴＡ）　　児童生徒数（　１０１　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　　２０，０００円
　　単Ｐ　　０円
　　その他　本校ＰＴＡ予算

（支出）２０，０００円
肥料代
種代
コンバイン使用料
軽トラックレンタル代
講師謝礼代　等

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

「米作り、もちつき、地域公開学習発表会」
５月に種まきに始まり、７月に田植え、１０月の稲刈り１１月に餅つきと地域公開学習発表会を行いました。餅つきには、ＰＴＡだけでなく、祖父母、婦人会、敬老会、交通安全協会、学校運営協議会等、たくさんの方々にご協力いただき、大盛況に終えることができました。また、もち米で作った「おもち」はみんなで食べ、「おこわ」はひとり暮らしの高齢者の方々へ児童がお届けしている。大変喜ばれ、「ぜひ、来年も」という声をいただいた。

◎成果

・米作りでは、ＰＴＡだけでなく、敬老会、公民館長、児童民生委員、婦人会等と連携し、児童に貴重な体験を積ませることができた。
・もちつきでは、ＰＴＡ役員と学校職員とは、何回も打ち合わせを行った。必要な準備品など前々日から学校へ行ったり、先輩ＰＴＡから情報を得たりして当日までスムーズにすすめることができた。
・もちつき当日午後から「地域公開学習発表会」が行われ、地域の方々へ直接「感謝の言葉」を全児童でお伝えすることができた。「感動した」「子どもたちの言葉と歌に涙がでたよ」等米作りにかかわった方、地域の方からお言葉をいただいた。

◎反省

・参加する人数（米作り、もちつき等）がやや減った。もちつきのつき手も不足した。これからＰＴＡ活動を活発に行うため、また、学校も「社会に開かれた教育課程」を実践するためにも参加するＰＴＡの数を増やしていきたい。
・もちつき、おこわづくりのレシピ等を記録し、引き継いでいく手立てを設けていきたい。
・今年度は田植えの時期に台風、大雨と重なった。仕方ないことだが、天候に恵まれないときにはしかたない。
・ＰＴＡとしても、本活動をホームページ、ＰＴＡ新聞、市の広報等で情報の発信を行いたい。

３．今後の取り組みについて

・本校として地域に根ざしている米作りである。校区の特徴として川に囲まれ、水を大切にする思いが地域にある。米作りは長い歴史と伝統があり、とても貴重で絶やすことができないとても大切な産業の１つである。今後とも継続して取り組んでいきたい事業である。社会に開かれた教育課程の実現のため、ＰＴＡも地域も走潟小学校への協力・支援を惜しまない。今後とも、本事業を継続していきたい。

４．要望・その他

・活動をスムーズにすすめていく中で、多額の予算を伴う事業である。貴重な財源である本活動は来年度もせひ継続していただきたい。
・本活動を県ＰＴＡホームページ等に掲載していただきたい。

親子ふれあいデー活動報告書

令和元年度（２０１９年度）

単位ＰＴＡ名（　砥用小学校ＰＴＡ）	児童生徒数（　１２７　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）		（支出）	
県Ｐ	２０，０００円	花苗代	３０，２００円
単Ｐ	１７，２００円	土、肥料代	７，０００円
計	３７，２００円	計	３７，２００円

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

本校ＰＴＡでは、生活委員会が主となり、毎年１１月に親子ふれあいファミリープランターを実施している。この活動は、花の苗を親子でプランターに植え、家庭で花を育てながら親子の会話を増やし、玄関や庭にプランター等を置き地域の方々との交流の一助になればと１０年ほど前からスタートした。今年は１１月１７日（日）に、花苗の３種類から１種類ずつ３苗を選んで、植えてもらった。

◎成果

好きな色や丈夫そうなものを親子で選ぶ姿はとてもほほえましかった。日曜の午前中であったが１時間３０分の間に、ＰＴＡ会員の約６０％の方の来校があった。ファミリープランターの実施後、親子で水やりの当番を決めたり、花の手入れの仕方をネットで調べたりしたという話を聞いたりした。花を通しての親子の関わりが少しでも持てた家庭も多いようである。

◎反省

実施時間後に来られる方でも花植えができるようにしていたので、当日の夕方までに約７０％の会員の方が花植えを完了された。日曜に来校できなかったところは、その後１週間ほどでほとんどの家庭が来校された。一方で苗を植えたプランターは各家庭に持ち帰るため、その後の活動の把握が難しい。

３．今後の取り組みについて

ファミリープランターの実施を楽しみにされている方も多く、継続的な取組になるよう次年度に引き継いでいきたい。さらに、植えた後どのように家庭で取り組んでいったか、ＰＴＡ広報誌などを活用しながら、栽培方法や取組状況を知ってもらい活動意欲につなげていきたい。

４．要望・その他

本校も年々ＰＴＡ会員数が減少し、花苗や肥料等の購入費用の捻出が難しくなりつつある。親子の貴重なふれあいの機会と捉えており今度も継続できるよう努力していきたい。複数年継続委嘱が可能であるならば、より継続的、効果的な活動が展開できると思われる。

親子ふれあいデー活動報告書

2019　年度

単位ＰＴＡ名（　小川小学校　）　児童生徒数（　１３５　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　¥20,000
　　単Ｐ　¥34,439
　　その他

（支出）　¥51,439

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

夏休みの愛校作業（学校内の草取り）の後に、今年は宇城市の施設を借りてドッチビーを行いました。子供達は１年生から６年生までを縦割りでの班分けを行い、保護者は学年対抗でドッチビーを行いました。
夏休みに開催ということもあり、ドッチビーを行った後はＰＴＡで準備したかき氷で体をリフレッシュし、最後は全員でカレーを食べ楽しい時間を過ごしました。子供達が楽しむ事はもちろんですが、保護者もスポーツを通し子供達同様楽しい時間を過ごしました。

◎成果

小川小学校は１学年１クラスの小規模校です。６年間共に過ごす子供達と同じように親も活動を通じ親睦を深めることが出来ました。
ＰＴＡ役員も愛校作業後にかき氷提供・カレー提供等行い、コミュニケーションもとれ子供達を笑顔にすることができました。

◎反省

毎年夏休みの愛校活動の後に行う為、できれば小学校での活動が望ましいですが、現状学校が使用でません。学校が使用できないので宇城市の施設を予約できるかが未定で今年度も当初の予定場所が別団体に予約されていたため場所を決めるのに苦慮しました。小学校での活動が出来れば参加者も増えると思うので来年度も学校側と調整を行っていきたい。
また、先生方の参加が増えてくれると嬉しいです。

３．今後の取り組みについて

現在の”親子ふれ愛ｄａｙ”の形になり３年となりました。今後も同様の活動は行っていきますが、参加者がより増え先生方も多数参加できるようにしていきたいです。

４．要望・その他

助成金のおかげで、夏休み期間中の親と子の触れ合うひと時を持つことが出来ました。子供達の大好きなカレーを食べ、スポーツとかき氷という夏休みの醍醐味を経験できました。保護者間のコミュニケーションもとれ、すばらしいイベントとなりました。是非、来年度も開催したいと思います。

親子ふれあいデー活動報告書

令和元年度

単位ＰＴＡ名（　上天草市立姫戸小学校ＰＴＡ　）　　児童生徒数（　８８　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　　２０，０００円
　　単Ｐ　　０円
　　その他　　０円

（支出）　２０，０００円
　　①読み聞かせ・親子読書等の図書費
　　②給食試食会における保護者給食費
　　③学年活動での食材費補助

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

①　ノーメディアデーを活用した親子読書＆保護者読み聞かせ
　ノーメディアデーに親子活動の取組の一つとして親子読書に取り組み、親子で体験や意見を共有し、充実した時間を過ごした。

②　地域ボランティア・親子給食試食会
　オープンスクールの際に、地域でお世話になった方々と希望保護者を学校に案内していただき、各教室に分かれて、給食をいただいた。

③　学年活動
　１年「カレー作り＆紙飛行機大会」　　２年「手びねりマグカップ作り」
　３年「ピザ・クッキー・おにぎり作り」　　４年「海水浴＆バーベキュー」
　５年「ピザ・クッキー・おにぎり作り」　　６年「海水浴＆バーベキュー」

◎成果

①　それぞれの親子で取組内容を考え、親子で同じ体験をし、その体験に関する意見を共有したことで、親子の会話が増え、家族で楽しい時間を過ごすことができた。

②　児童と保護者・地域ボランティアの方々との接点をつくることができ、保護者や地域ボランティアの方々の学校教育活動への理解を深めることができた。

③　各学年の保護者が主体となり、それぞれが工夫ある活動を提案し、学校の先生方はお客さんとして参加していただいた。親子で同じ体験をすることで新たな発見等もあり、相互理解が深まり、貴重な時間を過ごすことができた。

◎反省

　地域や親の活動が活発であるため、子どもの活動は地域に甘えているように感じるときがある。これからは、子どもが親や地域のために尽力し、地域の貴重な人材となれるような活動も考えていく必要があるように思う。

３．今後の取り組みについて

①　親子の繋がりに加えて、家族同士の繋がりにも目を向けた「読書リレー」等の取り組みも行った。読書に関する様々な取組を、今後も考えていきたい。

②　子どもたちが地域に出向いて貢献する活動を考えているが、授業時数が限られており、より一層の工夫が必要だと感じている。ぜひ子どもたちに、地域の貴重な戦力であるという自覚を持たせ、自己有用感を高めることができたらと思う。

③　学年活動においては、子どもたちの役割を明確にし、子どもがお客さんではなく、保護者がお客さんになれるような意識改革も考え、更に充実した活動になるように取り組みたい。

４．要望・その他

特になし

親子ふれあいデー活動報告書

令和元年度

単位ＰＴＡ名（　　苓北町立富岡小学校　　）　　児童生徒数（　６４　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　２０，０００円
　　単Ｐ
　　その他

（支出）　２０，０００円
　・富岡小子ども育成会体験活動費補助
　・もち米加工代

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容　富岡小子ども育成会体験活動
①運動会もち投げ　令和元年5月26日（日）実施
○運動会の昼食前、地域で収穫されたもち米を加工したもちを保護者や地域住民に配布。
○参加者･･･全児童、来賓、保護者、地域住民
②どんどや　令和2年1月4日（土）実施
○正月明けに「どんどや」を行い、古くから行われている日本の伝統行事に触れる。
○参加者･･･全児童、保護者、地域住民
③お別れもちつき、もち投げ　令和2年2月29日（土）実施予定
○6年生の親子でもちつきを行い、6年生児童がもち投げをして参加者に配布。
○参加者･･･全児童、保護者、地域住民

◎成果
もちつきやどんどやなど、児童にとっては日本に古くから伝わる伝統行事に触れる良い機会となっている。また、保護者間の連携も深まり、ＰＴＡ活動の活性化も期待できる。

◎反省
年々児童数が減少し、それに伴いＰＴＡ会員数も減少している。また、専門的な知識を有する保護者も少ない中の活動となるため、地域の協力をさらにお願いするなど、運営方法等を検討していく必要がある。

３．今後の取り組みについて

多くの保護者が富岡小学校時代に経験している活動であり、長年続けられてきている活動でもある。この伝統を現在の状況に応じて工夫しながら取り組み、今後も継承していきたい。

４．要望・その他

児童と保護者が一緒に活動する中で、親子でも会話も弾むとともに、異学年間の交流、保護者同士の連携も深まっています。今回、このように予算面での支援をしていただいたおかげで、運営等もスムーズに行うことができました。ありがとうございました。

親子ふれあいデー活動報告書

令和元年度

単位ＰＴＡ名（　天草市立楠浦小学校　　）　　児童生徒数（　１２４　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　20000円

（支出）のぼり旗セット　11638円
ソフトテニスボール　4488円
スケッチブック　3874円
計20000円

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容
・毎月第一月曜日をノーメディアデーとして各家庭に親子での時間をもつ事を呼びかけた。さらに、「携帯・スマホ一斉電源ＯＦＦ」も中学校区全体で一斉に取組を行ってきた。
・5年生が親子で稲刈り体験を通して米作りから収穫まで経験することができた。
・4年生が地区振興会と共に楠浦スタンプラリーを企画して親子で地域を歩く活動を実施した
・パラリンピック種目である「ボッチャ」を楽しむ機会を親子で持つことができた。

◎成果
携帯スマホ一斉電源ＯＦＦの取組は校区で徐々に浸透し、全学年平均で最初は８１％だったものが現在８７％まで実施率が広がった。また、ノーメディアデーの取組状況を見ると、親子で読書などを楽しむ時間が広がっていた。米作りなどの生産活動は一緒に汗を流すことで親子の絆も深まり、活動後の爽快感も共有できていた。また、その収穫したお米を全児童及び全家庭に配布する事で達成感も感じていたと思える。さらに、スタンプラリーやボッチャなど親子で楽しむ時間も設定できたことで、自然と会話をする場が生まれ、充実した時間が作り出せていた。

◎反省
5年生など学年単位で活動する場合は、ある程度参加人数を集めることができるが、広く活動を呼びかける場合、参加人数を確保する事に苦慮する。参加者が魅力を感じるような呼びかけや広報活動の重要性を感じている。また、ノーメディア　デーの取組は浸透してきてはいるが家庭によってかなり取組への温度差があり、その重要性も含めて保護者へ話す機会を持ちたい。

３．今後の取り組みについて

今後はこれまでの取組を継続しながら、さらに多くの保護者にも親子で参加でしていただけるようなＰＲ活動をＰＴＡから発信していきたい。さらに、ノーメデイアデーに関する取組はここ数年全校で取り組んでいることであるが、活動の意義を各家庭にこれまで以上に伝えて行くことが求められている。

４．要望・その他

助成を受けた資金で学校の「のぼり旗」を作成することができました。今後様々な活動の際にその旗を持参して学校のＰＲに活用させていただきます。ありがとうございました。

親子ふれあいデー活動報告書

令和元年度

単位ＰＴＡ名（　芦北町立田浦小学校　）　児童生徒数（ 180 ）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）　県Ｐ　￥20,000

収入の合計　￥20,000

（支出）①挨拶運動のぼり旗購入　…　￥18,400
②講演会講師お礼の品購入　…　￥ 1,600

支出の合計　￥20,000

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

「ハイタッチの日」を毎月11日に設定し、従来の挨拶運動にハイタッチを加えて実施しました。 家庭や学校、地域生活の中など様々な場面でハイタッチを行いました。

また、次のことを行いました

①運営委員会の児童に協力して頂き、先頭に立って活動してもらう。
②補助金でのぼり旗を購入。
③活動のポスターを作成し、学校内に掲示。
④挨拶についての講演会を実施（講師：大畑誠也様）

◎成果

活動を始めた当初は生徒に緊張や恥ずかしさが見られました。しかし、回を増す毎にそれらも薄れたようで、現在はほぼ全児童がハイタッチをしてくれるようになりました。挨拶が苦手な児童も、言葉は出ずともハイタッチはしてくれたりと、児童同士が触れ合うきっかけにもなったようです。

児童からは「挨拶だけをするより楽しく挨拶できた」、「自分の学年以外の子と仲良くなれた」などの感想が多く、今活動が良い影響を与えることができたと感じています。ある児童からは「人見知りが軽くなって良かった」との意見もありました。学校からは「ある児童は職員室にわざわざハイタッチしに来てくれる」など、挨拶だけの活動よりも、楽し気に参加できているように感じたとの意見が出ました。

挨拶をテーマにした講演会には、多くの保護者や地域の方にご参加頂き、挨拶について改めて考えることができました。

◎反省

各家庭での活動状況を確認することができませんでした。また、年間通しての活動ということが伝わらず、数回でやめてしまった家庭もあったようです。保護者の認知度をあげるためにも、継続的な活動と、学校だよりなどに記載するなど広報活動も行う必要があると考えます。

また、ハイタッチや挨拶が苦手な子への気遣いもより必要と感じました。

３．今後の取り組みについて

一年間続けることで、「ハイタッチの日」は児童にとっては習慣になったようですので、今後も継続することが大切だと考えています。本年度の反省も生かし、次年度は更に保護者と協力して活動します。

４．要望・その他

今回の補助事業があり大変助かりました。補助金の支給までPTA会費より立て替えて支払いをしていましたので、よろしければ本事業委嘱式に支給して頂ければと思います。

親子ふれあいデー活動報告書

令和元年度

単位ＰＴＡ名（　人吉市立西瀬小学校PTA　）　　児童生徒数（　２１５　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）	県Ｐ	２０,０００円	（支出）	門松づくり	２１,８８１円
	単Ｐ	４７,４９５円		どんどや	４５,６１４円
	合計	６７,４９５円		合計	６７,４９５円

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容

①門松づくり

伝統的な行事の一つとして「門松づくり」を実施し、学校正門前に設置。

・事前準備……１２月６日（金）までに必要な物品等の確認、手配等を行う。

・門松づくり…１２月７日（土）に実施

参加者：ＰＴＡ役員、学校職員、有志児童
学校支援ボランティア、門松会（地域ボランティア団体）
計 約３０名

②どんどや

小正月の伝統的な行事「どんどや」を実施。本校ＰＴＡと子ども会育成会の共催。

・実行委員会…１１月より計２回実施。詳細な計画等の確認。

・前日準備……１月１８日（土）に実施。

参加者：ＰＴＡ役員、子ども会育成会、学校職員
学校支援ボランティア、その他有志　　計 約３０名

準備内容：竹の組み上げ、櫓づくり、会場周辺の草払い
ぜんざいの下準備等

・どんどや……１月１９日（日）に実施。

参加者：本校児童、ＰＴＡ役員、子ども会育成会、学校職員
学校支援ボランティア、地元消防団、地域住民等
計 約２８０名

◎成果

①門松づくり

学校正門前に二つの見事な門松を飾り、本校児童や地域住民に伝統文化をつなぐことができた。特に、児童は普段はなかなか目にする機会がない大きな門松が設置されていることに大変喜んでいた。

②どんどや

今年で３３回目を迎えた「どんどや」は、人吉球磨地方でも随一の規模を誇るものである。当日は天候にも恵まれ、児童や地域住民の方々と共に燃え上がる炎に無病息災を祈願することができた。

また、西瀬少年消防クラブの活動発表を披露する場面もあり、参加者からは多数の励ましの声が上がった。

◎反省

①門松づくり

毎年、製作指導を門松会の方にお願いしているが、ＰＴＡ役員等への製作方法の伝承が今後の課題となっている。

②どんどや

大櫓の燃え上がる炎を見て、他地域の住民の方が驚かれたようであった。事前に消防署への通知は済ませてはいたが、近隣の地域への周知も徹底する必要があった。

３．今後の取り組みについて

二つの取組は、保護者と学校、地域住民が一緒に行う本校の伝統的な行事である。当日の活動の様子については、学校だよりや学級通信、ＰＴＡ新聞等で紹介をした。

来年度以降も「門松づくり」「どんどや」を通して、親子のふれあいや学校、保護者、地域住民とのふれあいを深めていきたい。また、未来を担う児童のために、さらには豊かな地域社会の形成のためにも、伝統的な文化を継承していきたい。

４．要望・その他

単Ｐの予算が厳しくなる中で、親子ふれあいデー活動助成金は大変有難いものである。来年度以降の行事実施のためにも、活動助成金の継続をお願いしたい。

親子ふれあいデー活動報告書

令和元年度

単位ＰＴＡ名（　あさぎり町立深田小学校　）　　児童生徒数（　　８５　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）		（支出）	
県Ｐ	２０，０００円	事業費	１１６，０００円
単Ｐ	２８６，６２６円	会議費	５５，０００円
その他	１２１，６００円	旅費	５０，５００円
	４２８，２２６円	その他	２０６，７２６円
			４２８，２２６円

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容
・各学年の活動（１年：ソーセージづくり　２年：親子スポーツ大会　３年：ハムづくり
４年：市房登山　５年：ピザづくり、バーベキュー　６年：親子キャンプ）
・食と農のフォーラム
伝統的食文化の継承や農産物生産者との交流を深め、地域の食について考え、食に感謝する心をもつことを目的に行われた。（地産地消）
・読み聞かせ（月１回）　・茶摘み　・稲の栽培　・芋の栽培　・親子ふれあい読書デー
・学習成果発表会、起業体験活動販売会　・空き瓶回収活動

◎成果
・子どもと触れ合う時間を積極的につくったことにより、共に考え、共に汗を流す活動を行い共に喜びを分かち合ったり、親子間での思い出を作ったりすることができた。親子の絆を深めるだけでなく、子ども同士、保護者同士の絆も深めることができ、「チーム深田」としての意識が高まった。

・子ども達の健全育成のためには、家庭と学校と地域社会が互いに協力し合うことが必要である。本年度のＰＴＡ活動方針にもあるように、「教育の原点は、家庭にある。」ことを再認識することができた。

・活動時に親子の笑顔を多く見ることができた。

◎反省
・多くの人が参加しやすく、充実した活動になるよう内容を検討したい。
・活動の反省を次年度に生かしていきたい。
・活動の回数や内容の見直しを検討したい。

３．今後の取り組みについて

・今後も、親子の触れ合う時間を大切にし、様々な取組をとおして家庭と学校と地域社会がさらに連携を深め、子どもたちの健全育成につながるよう努めていきたい。

・社会に開かれた教育課程の実現に向けて、深田校区ならではの特色ある活動を展開したい。

４．要望・その他

・熊本県ＰＴＡ連合会様より、親子ふれあいデーに対する活動費を補助していただき感謝申し上げます。また、中間報告会では他校ＰＴＡの創意工夫ある活動について学ぶことができ、とても参考になりました。本校ＰＴＡ活動の今後に生かしていきたいと思います。

・他の地域ＰＴＡとの交流活動も行うことができればと考えています。

親子ふれあいデー活動報告書

令和元年度

単位ＰＴＡ名（　水上村立湯山小学校　）	児童生徒数（　３６　）人

１．予算執行状況（収入・支出）

（収入）県Ｐ　２０，０００円
単Ｐ　５９６円
その他

（支出）２０，５９６円

２．活動内容・成果・反省

◎活動内容
① 体験活動
- 竹ぼうき作り、たかんぼ飯炊き、本棚制作、門松作り、縄ない
- 田植え－稲刈－脱穀－餅つき「収穫祭」
  「収穫祭」は、保護者・地域ぐるみのイベントである。収穫した餅米で餅をつき、体験活動や見学などでお世話になった地域の方々にに届けた。地域の方々や保護者が調理したおにぎり、豚汁をみなでおいしくいただき、収穫の喜びを分かち合った。

② 水防避難訓練

◎成果
① 子供の学びと育ち
- 保護者や地域の方との交流は、社会性を育むよい機会となった。
- 地域や地域の自然、地域の人を大切にしようとする気持ちを高めた。
- 地域から大切にされていることを実感する機会となった。

② 保護者・地域
- これまでの取組を振り返り、保護者や地域の方からは、「よくできた」という声を聞くことができた。
- 「次は何をするか」、学校と保護者や地域との間で考え、取組を進めて行こうとする雰囲気が醸成された。

◎反省
① 子供の学びと育ち
- 子供の学習との関連をさらに図り、体験活動を行う。このことによって、様々な体験は子供の学びと育ちにとって、より有益なものとなる。

② 地域・保護者
- 保護者及び地域の協力を得て、貴重な体験活動を行うことができた。協力者の確保に努める必要がある。
- 学校と保護者・地域の間で、このような体験活動を通じて、子供に何を育み、どんな力を付けるのか。具体的な目標を共有することが大切だと考える。

３．今後の取り組みについて

今年は、ＰＴＡや熊本版コミュニティ・スクールの協力を得て、様々な体験活動の場を子供たちに実現することができた。このことによって、学校と保護者や地域との間で、「子供たちのために」という思いを共有することができた。

児童数が減少する中ではあるが、今後も、学校と保護者・地域との連携に心を配り、このような取組を継続するとともに、さらに充実させていきたいと考えている。

４．要望・その他

親子ふれあいデー活動の委嘱を受け、助成金をいただいたことを大変ありがたく思います。

親子ふれあいデー活動

令和２年２月２８日発行

熊本県ＰＴＡ連合会
会　　長　村﨑　一英
家庭教育担当副会長　児玉　裕美
家庭教育委員長　眞田　洋子